

災害 襲い来る 脅威を知ろう



大雨・豪雨 短時間で河川の氾濫や家屋の浸水が発生 土砂災害につながるおそれも

発達した積乱雲による大雨は雷を伴って短時間に狭い範囲で激しく降るのが特徴で、著しい災害が発生すると豪雨の名称が付きます。

日本での大雨の推移を見ると、この100年で1日あたりの降水量が100mm以上の日数は約1.2倍、200mm以上の日数が約1.4倍と、増加しています^{※2}。

大雨は、急な河川の増水や低地の冠水を引き起こします。普段は穏やかな川でも鉄砲水によって急に勢いよく水かさが増すこともあります。あわせて山の地盤が緩くなり、土砂災害が引き起こされる危険性も高くなります。

積乱雲が近づいた場合は川や低地からすぐに離れるとともに、雷を避けるために木や電柱と距離をとって建物や車の中に避難しましょう。

また、街中でも住宅の浸水被害や、地下に多量の雨水が流れ込んで逃げられなくなる危険性があります。

加えて大雨による浸水では家屋のみならず、クリーニング機器やお客様の衣類に被害が及ぶことがあるので十分な注意が必要です。

※2 気象庁「異常気象リスクマップ」(<http://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/riskmap>)

👉 家やお店を守る、水害への備え

近年は、梅雨や台風の季節を中心に大雨やゲリラ豪雨の被害が多発しており、河川から離れた土地でも住宅の浸水被害が起きています。

特に、半地下であったり地下に駐車場や玄関があったりする住宅は道路が冠水した時に真っ先に水が流れ込んでくる上に、場合によっては水圧でドアが開かなくなることもあるので注意が必要です。

発生頻度も被害の可能性も高い水害ですが、防ぐ方法はあるのでしょうか。

まずは自分の住む地域の水害リスクを知ることが、対策の第一歩となります。都道府県や市区町村のホームページ・役所でハザードマップを確認しましょう。過去に水害が発生している地域ならば、お客様の衣類を2階以上に保管しておくことが被害を最小限に食い止める方法の一つとなります。

浸水対策としては、土のうや止水板を用意しておきます。土のうはホームセンターなどで取り扱っている他、行政が無料で配布している地域もあります。また、いざというときは家庭にあるゴミ袋を利用して簡易水のうを作ることでもできます。加えて、日頃から道路の側溝や雨水ますに溜まった落ち葉や砂を掃除するだけでも排水能力が上がります。



台風・竜巻 暴風雨・突風に煽られた 飛来物が凶器となる

毎年、台風による被害が全国で後を絶ちません。大雨と暴風の影響は人命、家屋、ライフラインや交通網など多岐に及びます。

また近年は竜巻やダウンバーストなどの突風のニュースがよく取り上げられています。竜巻は積乱雲に伴う上昇気流、ダウンバーストは積乱雲に伴う下降気流が突風をもたらす現象で、どちらも短時間で家屋の倒壊や飛来物の衝突などの被害を生みます。

台風や竜巻が発生した場合は建物の1階に移動し、飛来物が外から突き破ってきても安全なように壁や窓から離れて部屋の中心部に避難します（ただし、プレハブや物置・車庫は危険）。また窓や雨戸を閉めてカーテンを引き、割れたガラスなどの飛散物を防ぎましょう。

屋外にいてどうしても建物に避難できない場合は、電柱や樹木から離れて頑丈な構造物の物陰で身を小さくしましょう。

水害対策のポイント

① 地域のハザードマップを確認する

⇒ 都道府県や市区町村のホームページ、地域の役所で閲覧可能。
国土交通省ハザードマップポータルサイトでも公開。

【国土交通省ハザードマップポータルサイト】 <http://disaportal.gsi.go.jp>

② 預り品の衣類を2階以上に保管する

⇒ 過去、水害が発生している地域ならば、なるべく2階以上にお客様から預かっている衣類を保管する。

③ 土のうや止水板を用意する

⇒ ホームセンターなどで購入可能。
行政が無料で配布している地域もある。

④ 道路の側溝や雨水ます^{うすい}を掃除する

⇒ 側溝や雨水ますに溜まった落ち葉や砂が排水を妨げている場合がある。

日常の店舗掃除の一環として取り除けば大雨の際、道路に水が溢れる可能性が低くなり、お店の美観も保たれる。また、雨水ますの上をブロックや段差解消プレートで塞がない。

【簡易水のうの作り方】

- ① 40ℓ程度のゴミ袋を二重にする
 - ② 中に半分程度（持ち運べる重さ）の水を入れる
- ※簡易水のうが防げる限度は10cm程度の浸水です